

木材供給の効率化について（地域林業SCM）

福岡県

1 取組の背景・課題

- ・川下のニーズ（品質、量、時期）が必ずしも川上に的確に届くとは限らないため、ニーズに応じた原木供給が行われないことがある。その結果、需要と供給のミスマッチが生じ、価格低下等のリスクが潜在。
- ・ミスマッチを解消し、山元への収益還元を図るためには、川上から川下までの連携を強化し、安定的な木材供給を実現することが必要。

2 施策の方向性

ICTを活用し、需給情報の共有を図ることで、木材の安定供給を推進。

3 事業の概要

【地域林業サプライチェーンの構築】

モデルとなる地域において、関係者※により構成される地域協議会を設立し、川上から川下までの事業者が連携した地域内のサプライチェーンを構築し、情報共有システムによる需給マッチングや需給情報の一体的管理などを実践。

※構成員：<川上> 森林組合、<川中> 製材所等、<川下> 工務店 <オブザーバー> 市町村

【取組内容】

○情報共有システムによる情報の一体的管理

- ・川上と川下の連携強化により在庫情報や必要予定量の情報をクラウド上で管理し、関係者がいつでも確認可能
→工務店が求める材を山元が把握でき、需要に応じた効率的な伐採計画の策定
→工務店が丸太を直接購入することで、常に一定の在庫を確保

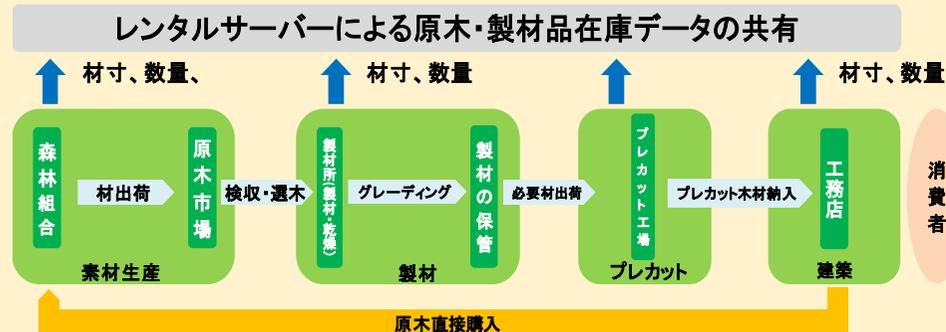
○川上から川下の連携強化による産地と品質の見える化

- ・山元と工務店の距離が近づき、こだわりの家づくりや商品開発にも寄与

【取組の成果】

- 令和5年度までの3年間で106棟を建築
R3:21棟
R4:38棟（うち保育施設1棟）
R5:47棟

- 令和6年度以降は、年間計画約100棟
・月8棟の住宅建築を目標



地域林業SCMのイメージ



撮影：学校法人環境学園